

カンボジア

2022年11月10日

海外調査部・プノンペン事務所

カンボジアの2021年の実質GDP成長率は2.2%だった。政府は新型コロナウイルスのワクチン接種率が高まったことで、新規感染や重症化リスクが減少したと判断し、2021年第4四半期から経済回復の施策に大きく舵を切った。2022年は、中国でのロックダウンやロシア・ウクライナ情勢の影響を受けている。それでも、2022年上半期の輸出額や対内直接投資額は回復基調を示しており、経済回復への期待が高まる。今後は、地域的な包括的経済連携（RCEP）協定の活用などを追い風に、さらなる輸出の拡大が注目される。また、観光業や建設業の回復には時間がかかる見込みだが、それ以外の業種を中心に経済回復が進むことが期待される。

■2021年後半から経済回復に向けて進行

カンボジア政府は2021年10月以降、市民生活における新型コロナ関連規制を順次緩和した。11月15日にワクチン接種済みの外国人に対する入国規制を緩和し、11月末には一部残っていた飲食店などへの規制も緩和したことで、ほぼ全ての商業活動が再開された。12月22日には「ニューノーマル（新常态）における経済回復戦略的枠組みプログラム2021～2023」を発表し、経済回復への新たな指標を示した。2022年第1四半期には新型コロナのオミクロン株による一時的な感染拡大もあったが、4月下旬にPCR検査による新規感染者数がゼロ¹になって以来、連続52日間の新規感染者数ゼロを記録した。また、2021年10月15日には新投資法を施行し、企業誘致に積極的に取り組む姿勢を示した。IMFは2022年4月時点で、同年のカンボジアのGDP成長率を5.1%と予測している。中国でのロックダウンやロシア・ウクライナ情勢の影響を受け、消費者物価上昇率は3月から6月にかけて7%台まで上がるなど、経済回復鈍化の懸念があった。しかし、7月には石油価格高騰が落ち着くなど、先行きの懸念はやや和らいだ。また、2022年上半期は輸出額や対内直接投資額が伸びており、経済回復が見込まれる。

■輸出は小幅な伸び、輸入は金が急増

2021年の輸出は前年比5.3%増の193億900万ドルと、小幅な伸びにとどまった。品目別にみると、縫製品ではニット製品が14.3%増加し、非ニット製品と併せて輸出全体の4割以上を占めた。前年比で大きく伸びたのは、革製品・かばん（56.8%増）と電気機器・部品（41.9%増）だ。この2品目はいずれも米国向けが、大きな割合を占めている。履物（24.0%増）、穀物（28.7%増）、家具類（37.0%増）も大きく増加した。

¹ 抗原検査で陽性となっても、重症化の恐れがない場合は、PCR検査を求めない方針。

輸入は前年比50.3%増の287億300万ドルと、大きく伸びた。品目別にみると、宝石・貴金属が前年比6.6倍に増え、約60億ドルで最大の輸入品目となった。関税消費税総局 (GDCE) へのヒアリングによると、宝石・貴金属の急激な増加は「金」が多くを占めており、「金」の価格高騰を受けた投機的な動きの可能性もあるという。2021年は宝石・貴金属以外の輸入も安定して増加しており、宝石・貴金属を除いた品目は前年比24.8%の伸びだった。

表1 カンボジアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
縫製品 (ニット)	5,091	5,819	30.1	14.3	宝石・貴金属	905	5,993	20.9	562.4
縫製品 (非ニット)	2,296	2,198	11.4	△ 4.3	ニット繊維	2,367	2,952	10.3	24.7
革製品・かばん	1,008	1,581	8.2	56.8	鉱物性燃料	1,922	2,403	8.4	25.0
履物	1,123	1,392	7.2	24.0	車両・部品	1,704	1,967	6.9	15.4
穀物	973	1,252	6.5	28.7	機械類	1,223	1,380	4.8	12.8
電気機器・部品	762	1,081	5.6	41.9	電気機器・部品	1,182	1,191	4.1	0.7
家具類	637	873	4.5	37.0	プラスチック	834	1,164	4.1	39.6
その他	6,452	5,112	26.5	△ 20.8	その他	8,963	11,652	40.6	30.0
合計	18,342	19,309	100.0	5.3	合計	19,100	28,703	100.0	50.3

(出所) カンボジア関税消費税総局 (GDCE)

■輸出は米国向け、輸入は中国からがトップ

輸出を国・地域別にみると、米国向けが最大だった。前年比40.7%増加し、構成比は2020年の29.0%から2021年に38.8%へと拡大した。米国への主要輸出品目は、縫製品と履物が中心で、米国への輸出全体の47.6%を占める。それに続く革製品・かばんは前年比63.3%増の伸び率をみせた。2022年上半期も前年同期比59.5%増加し、好調な伸びを維持している。近年の輸出増加の流れも受け、2022年8月6日にはカンボジア旅行用品革製品協会 (CTLA) が発足している。120社ほどが加盟し、カンボジア製品の国際競争力の更なる向上に努める方針だ。

一方、輸入を国・地域別にみると、シンガポールとスイスが宝石・貴金属の輸入を中心に大幅に伸びた。最大の輸入先は中国で、前年比36.5%増と強い伸びを示した。2021年の中国からの主要輸入品目上位3品目を見ると、ニット繊維、人造繊維、機械類だった。上位10品目が輸入金額全体の65.4%を占めているが、それ以外にも幅広い品目が中国から輸入されている。

2022年上半期も米国向けの輸出と中国からの輸入は増加の傾向を示している。2022年1月1日に発効した地域的な包括的経済連携 (RCEP) 協定を活用した加盟国への輸出額は、2022年上半期で前年同期比10%程増加した。現時点ではRCEPの効果といえる顕著な伸びは表れていないが、カンボジア国内ではRCEP活用による輸出増加への期待は高い。

表2 カンボジアの主要国・地域別輸出入

(単位: 100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
米国	5,322	7,490	38.8	40.7	中国	7,095	9,684	33.7	36.5
ベトナム	1,252	1,985	10.3	58.6	シンガポール	986	5,097	17.8	417.0
中国	1,088	1,510	7.8	38.8	タイ	2,865	3,463	12.1	20.9
日本	1,062	1,094	5.7	3.0	ベトナム	2,656	3,144	11.0	18.4
カナダ	751	955	4.9	27.1	台湾	754	980	3.4	29.9
ドイツ	877	881	4.6	0.4	スイス	364	964	3.4	165.0
英国	831	732	3.8	△ 11.9	香港	446	725	2.5	62.4
タイ	896	620	3.2	△ 30.8	日本	651	641	2.2	△ 1.6
ベルギー	482	508	2.6	5.4	インドネシア	665	608	2.1	△ 8.5
オランダ	363	441	2.3	21.6	韓国	549	580	2.0	5.6
その他	5,417	3,093	16.0	△ 42.9	その他	2,070	2,817	9.8	36.1
合計	18,342	19,309	100.0	5.3	合計	19,100	28,703	100.0	50.3

(出所) カンボジア関税消費税総局 (GDCE)

■日本のカンボジアからの輸入は衣料品や履物が大半

日本の財務省貿易統計 (通関ベース) によると、2021年の日本のカンボジアへの輸出は、前年比19.0%増の5億7,800万ドルだった。品目別にみると、肉類が伸びて首位となった。2位は車両・部品だった。その内訳をみると、完成車が48.8%で、部品・アクセサリが51.2%と、部品・アクセサリ

表3 日本の対カンボジア主要品目別輸出入 (通関ベース)

(単位: 100万ドル, %)

品目	輸出 (FOB)				品目	輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
肉類	77	146	25.2	88.9	衣料品 (ニット)	503	565	32.3	12.4
車両・部品	83	99	17.2	20.1	衣料品 (織物)	540	540	30.9	△ 0.1
機械類	110	97	16.8	△ 11.5	履物	177	191	10.9	8.4
電気機械・部品	57	47	8.2	△ 16.1	革製品	139	151	8.7	8.7
特殊品	31	32	5.6	3.3	電気機器・部品	123	148	8.5	20.8
光学機器	13	19	3.2	38.6	傘、杖および部品	43	36	2.1	△ 15.9
綿	7	12	2.1	60.7	紡織用繊維のその他の製品、中古衣類	24	23	1.3	△ 5.2
その他	107	126	21.7	16.8	その他	72	93	5.3	28.2
合計	486	578	100.0	19.0	合計	1,621	1,748	100.0	7.8

出所: Global Trade Atlas データ (日本の財務省貿易統計) を基にジェトロ作成

の割合が増え、初めて完成車を抜いた。特に自動二輪車 (バイク) と自転車用の部品が前年比42.8%増加しており、ここ5年間では2019年の前

年比50.0%に次ぐ2番目の伸び率となった。カンボジアではバイクの生産と販売の増加に加え、自転車の生産と輸出が伸びており、日本からの部品供給の需要も高まっている。

2021年の日本のカンボジアからの輸入は、前年比7.8%増の17億4,800万ドルだった。新型コロナ流行下で低迷していた衣料品・履物・革製品の輸入が前年比29.4%増加し、輸入全体の82.9%を占めた。電気機器・部品も20.8%の伸びを示したが、構成比は8.5%にとどまる。

■対内直接投資額は大幅減、中国からの投資占有率が60%超え

2021年の対内直接投資 (認可ベース) は、件数が前年比32.3%減の155件で、金額が54.1%減の18億6,100万ドルと、大きく落ち込んだ。国・地域別にみると、中国からの投資額は前年比30.2%減少したものの、引き続き全体の61.2%を占める最大の投資国であった。中国からの投資額上位3企業の業種は、タイヤ製造、製紙、ペットフード製造だった。その他の国・地域からの大型投資案件では、ケイマン諸島から5つ星ホテルと家具製造の進出があり、米国からはタイヤ製造 (カンボジア資本との合弁企業) や自動車組み立てなどの進出があった。日本企業ではイオンモールをはじめ、既存企業の拡大投資などがあった。

なお、2022年上半期の対内直接投資は、既に12億1,900万ドルが認可されている。2021年の年間総額の65.5%相当に達しており、回復傾向にあると言える。

表4 カンボジアの国・地域別対内直接投資 <認可ベース>

(単位: 件、100万ドル, %)

	2020年		2021年			
	件数	金額	件数	金額	構成比	伸び率
中国	196	1,632	113	1,139	61.2	△ 30.2
英国領 (ケイマン諸島、バージン諸島)	2	1,824	7	200	10.8	△ 89.0
米国	2	33	5	162	8.7	384.0
シンガポール	6	113	14	135	7.2	19.0
日本	1	7	2	62	3.3	761.5
タイ	4	56	5	52	2.8	△ 5.9
セーシェル	0	0	3	48	2.6	0.0
サモア	0	0	3	20	1.1	0.0
韓国	2	263	1	20	1.1	△ 92.4
その他	16	128	2	22	1.2	△ 82.4
合計	229	4,056	155	1,861	100.0	△ 54.1

[注] SEZ (経済特区) 外および、SEZ内への適格投資案件 (QIP) 取得の投資案件統計を足し上げたもの。なお、QIP取得企業以外の統計は入手できない。

[出所] カンボジア投資委員会(CIB)、カンボジアSEZ委員会(CSEZB)よりジェトロ作成

■自動車産業で新たな投資の動き

今後の見通しとして、自動車産業を中心にカンボジア国内の製造業のサプライチェーン網の強化が期待される。例えば、2021年にはタイ系のRMAカンボジアによる米国フォードの自動車組み立て工場設立が認可されるなど、自動車関連の進出が続いた。また2022年1月の現地報道では10社程度の同様の投資計画があるとされる。先述のフォードの工場は6月に開所し、国内向けにピックアップトラックなどを生産する計画だ。生産能力は9,000台で、初年度は1,000台以上を生産する。さらに2022年9月には、カンボジア政府が日系大手自動車メーカーの車両組み立て工場の進出を認可したとの現

地報道が出ている。中国の大手タイヤメーカーの進出や日系自動車部品メーカーの工場拡張なども続き、自動車産業関連の裾野拡大も期待される。

建設業と観光業の完全な回復には、まだ数年かかるといわれている。それでも、カンボジア政府は戦略的な経済回復策を実行に移しており、国内経済は回復に向かっている。また、新投資法で18の優先業種の事業に対する税制優遇措置を拡充し、外国企業による投資を促す方針を示している。フン・セン首相は、「2030年までの高中所得国入り」に向けたアクションは順調で、楽観視していると話しており、着実な経済成長が期待される。

主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口：1,584万人 (2021年)			
②面積：18万1,035km ² (2019年)			
③1人当たりGDP：1,654米ドル (2021年)			
④実質GDP成長率 (%)	7.1	△ 3.1	2.2
⑤消費者物価上昇率 (%)	2.0	2.9	3.0
⑥失業率 (%)	0.1	0.3	0.6
⑦貿易収支 (100万米ドル)	△ 7,252	△ 2,522	△ 11,250
⑧経常収支 (100万米ドル)	△ 3,694	△ 2,364	△ 12,136
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	17,033	18,564	17,318
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	15,430	17,541	20,136
⑪為替レート (1米ドルにつき、 リエル、期中平均)	4,061	4,093	4,099

〔出所〕 ①③④⑤⑨⑪：IMF、②：カンボジア計画省、⑥：世界銀行、⑦⑧⑩：カンボジア国立銀行

(お問い合わせ先)

海外調査部 アジア大洋州課

ORF@jetro.go.jp